



北海道大学 リスキリング講座 GX×ネイチャーポジティブ 応用編(集中合宿)

会議室を出て、雪の森へ。 自社のGXを、問い直す3日間。

2026年12月15日(火)～17日(木) 2泊3日

北海道大学 雨龍研究林(北海道・幌加内町) 札幌キャンパス集合・解散

定員

10名

少人数制

こんな方に

GX・サステナビリティ推進、経営企画、新規事業の実務担当者・管理職。次年度にGXの役割を担う方にも。所属を問わず、関心のある方はどなたでも。

持ち帰るもの

自社のGX・ネイチャーポジティブの論点整理と、2080年から逆算したアクションプラン。

—— ここでしかできない、3つのこと

- 1 一般には入れない研究林を、雪の上を歩いて**
1901年から観測が続く北海道大学 雨龍研究林。冬は人の立ち入りがほとんどない森を、雪上を歩いて観測地へ向かいます。
- 2 100年単位で森を見る研究者と、同じ目線で**
森林生態学・森林管理の研究者が同行し、解説します。「100年後の森」は比喻ではなく、実際に観測されている時間軸です。
- 3 異業種の参加者と、寝食を共にして**
昼は森、夜は対話。自社では出ない視点が、別の業種から届きます。修了後もアルムナイのネットワークとして続きます。

—— 昨年度の受講者は

5.00/5

合宿直後の満足度
(企業参加者6名全員
が回答)

6名中4名

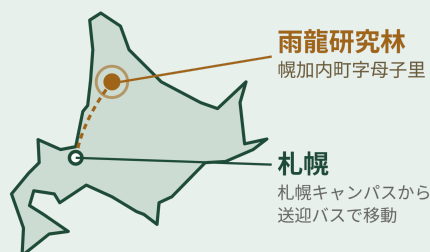
半年後も、学んだ内容を
業務で活用

冬の森で木を伐り、森を生かすという体験が最大の経験だった。夜に散歩に出たとき、空気が澄んで星が本当に綺麗だったことが強く心に残っている。

情報通信業・30代

フィールド:北海道大学 雨龍研究林

北海道北部、雨竜郡幌加内町字母子里。1901年(明治34年)に北海道大学で最初に創設された研究林で、管理面積は約2.5万ha(249km²)。朱鞠内湖を囲む針広混交林と、蛇紋岩の上に成立したアカエゾマツの純林が広がります。年平均気温は約3℃、冬は-30℃を下回り、積雪は多い年で2m75cmに達する、道内有数の多雪寒冷地です。32か所の長期観察林で樹木群集の動態を追い、種子生産、野生生物、水と物質の循環、気象の長期観測が続いています。



3日間の流れ・申込は裏面へ▶

—— プログラム

3日間ですること



Day 1 森から問いを見つける

- ・札幌から送迎バスで研究林へ
- ・研究者の解説：100年後の北国の森
- ・歩くスキーで、天然林を歩く
- ・夜はナイトウォークと対話



Day 2 自社の課題につなげる

- ・手ノコで間伐。森を維持する人の手を実感
- ・2080年の暮らしと、そこで自社が提供する価値を描く
- ・生成AIでアイデアを形にし、反応を観察
- ・夜は異業種の参加者と対話



Day 3 実装への一歩を描く

- ・2080年の理想から、2030・2050・2070年の通過点を逆算
- ・自社のアクションプランにまとめ、発表
- ・午後、送迎バスで札幌へ

—— 受講者の声

受講後に変わったこと

脱炭素の施策を検討するとき、CO2削減効果や経済性だけでなく、地域の課題解決につながるか、自然資本に悪影響を与えていないかという視点で企画・評価するようになった。

エネルギー・経営企画・20代

長い時間軸で未来を考え、まだ存在しない姿をまず描き、現在へ逆算し、AIで仮説を素早く具体化して人と議論する。新しい仕事の型を実際に体験できた。

製造業・カーボンニュートラル担当・50代

—— 開催概要

日程	2026年12月15日(火)～17日(木) 2泊3日
会場	北海道大学 雨龍研究林(北海道雨竜郡幌加内町字母子里)。宿泊は研究林の宿泊施設
集合・解散	北海道大学 札幌キャンパス。研究林との往復は送迎バス
定員	10名
受講料	30,000円 +実費1万円以内(宿泊・食事 2泊6食) 文部科学省事業の支援により、参加しやすい価格に設定しています。札幌までの往復旅費は各自ご負担ください。防寒着・防寒靴は貸出があります。
主催	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター(FSC)

申込・資料



申込フォーム

申込締切: **2026年11月30日**
(月)



派遣をご検討の方へ

合宿のねらい・3日間の流れ・昨年度の成果・費用をまとめた資料です。社内での説明にお使いください



紹介動画

研修の概要や受講生の声をYouTubeでご覧いただけます

お問い合わせ

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター(FSC)
gx-mirai@fsc.hokudai.ac.jp